

とくほう

徳泉寺報

No.001

発行 平成29年11月

発行元 徳泉寺

仙台市宮城野区 榴岡3-10-3

(022) 297-4248

ほうおんこう こんしゅう

報恩講 勤修



去る十月二十四日、宗祖親鸞（しんらん）聖人の御命日法要『報恩講』が勤修されました。今年には親鸞聖人が亡くなられて七百五十七年目。私まで阿弥陀（あみだ）の教えが届いたことを、共に感謝し、私の生き方をもう一度見つめる一日でもあります。

前日に台風が襲来し、不安の中での準備でしたが、台風一過の秋晴れの良いお天気でみなさまをお迎えすることができました。

午前十一時三十分 《お斎（とき）》

前日から同朋会（どうぼうかい）員のみなさんで準備してきたお斎をいただきました。

献立は「白和え」「おひたし」「がんも煮」「味噌汁」「新白米」「漬物」どれも多くの方の手に寄り、作られたものばかりです。

たくさん量を一度に作るためか、風味まろやかで毎年お斎を楽しむに参詣いただく方も多くいらっしゃいます。



伝統のお斎

午後一時 《勤行（こんぎょう）》

市内の僧侶十二名を迎え、住職と前任職を合わせた計十四名で親鸞聖人の書かれた『正信偈（しょうしんげ）』をお勤めしました。参詣者も一緒に読み上げ、大声が本堂に響き渡り、荘厳で厳粛な勤行でした。

午後二時 《法話（ほうわ）》

今年度の講師は福島県浜組 明賢寺（みやうけんじ）住職 藤内和光（ふじうちかずてる）師でした。

「我痴・我見・我慢・我愛」この四つの煩惱（ぼんのう）を抱えた私達。その煩惱を打ち消すことはできませんが、仏法に出遇うとその煩惱を抱えて生きる覚悟ができる、というお言葉が深く心に残りました。

そして、阿弥陀が私に呼びかけている願いは「あなたを本当に大事にしなさい。それがあなたの仕事です。欲望を大事にするのではなく、生まれてきてよかった、私が私であつてよかった、そういうあなたになりなさい」であると伝えてくださいました。

多くの方に支えられ、今年も無事に報恩講を終えることができました。毎年、この口をみなさまと共に迎えられることの有り難さを、しみじみと感ずります。心より感謝申し上げます。



前日からの準備



藤内先生によるご法話



勤行